



委員会等活動成果

国際関係委員会 欧州調査部会

“The Actuary”の記事紹介

Pick Up

英国アクチュアリー会月刊誌「The Actuary」2006年4月号から

2007年3月23日

個別自己資本要件基準 – さらなる挑戦 (ICAS – the challenges ahead)

EUにおけるソルベンシー規制の強化に呼応する形で、英国においても2005年1月1日より資本水準の妥当性を各保険会社で個別評価 (Individual Capital Assessment; ICA) し、報告するようFSAより要請されるようになった。

これは銀行業界におけるバーゼルIIの第2の柱 (監督当局によるレビュー) に対応するものであり、EUからはこの英国のICAに関する研究・実施がソルベンシーIIへの大きな貢献となるとして、注目を浴びている。

本稿ではこの個別自己資本要件基準 (Individual Capital Adequacy Standards ;ICAS) がスタートして1年経過した時点で、今一度振り返り、これまでに得られた成果とこれからの将来に向かって寄稿者の想いが述べられている。

●個別自己資本要件基準とは

個別自己資本要件基準は、

保険という特殊な事業に対して会社が健全な財務基盤を持つこと
リスク管理に対しさらなるインセンティブを提供すること
破綻するリスクを抑制し、より高い透明性を確保することで消費者保護と市場の信頼に努める
を目的 (諮問書136,195号などから抜粋) として作成された基準である。その評価においては考慮すべき事項として、「統合健全性ソースブック (Integrated Prudential Sourcebook; PRU [訳注; ソルベンシーに関して各業界ごとに別々に規制されている枠組みを全ての金融機関に共通の原則として統合することを目的とした新規制])」の中で責任準備金の不足や指数の悪化など保険引受リスクのほか、オペレーショナルリスクやレピュテーションリスクなど契約者行動の

変化などを列挙するに留めており、具体的な評価方法は定めることなく、各社がそれぞれに適合した内部モデルを開発して報告するものとなっている。

●FSA の狙い

このように観点を示すのみに留めている理由のひとつとして、会社ごとの実態を勘案した、その会社に則した内部モデルの確立を FSA は期待していることが考えられよう。

実際、企業としては FSA が期待する「自己資本の評価」がいかなるものか、どのようにすれば自社のリスクを適切に評価できるのか（「個別資本ガイダンス（Individual Capital Guidance; ICG [訳注：FSA は各社が報告してきた ICA に基づいて、必要であれば資本の追加などを通告する。]）」で追加資本が要請されるなどしては収益性を圧迫しかねないことも影響しているかもしれない）、この ICAS を契機に各社独自の内部モデルの開発とリスク認識について深く研究する結果となっている。

しかし、依然として各企業とも自社の独自性を重視すべきか、あるいは評価としてバランスの取れたものとすべきかなど、そもそもの焦点を見定めることに困難を極めているのが現状であると筆者は考えている。

●オペレーショナルリスク

自己資本の評価に含めることが求められているが定量化の難しいリスクの一つがオペレーショナルリスクである。

この分野の分析は多くの人が問題意識を持つ部分であるものの、必ずしもアクチュアリアル部門ではない部署のリスク管理となるため、評価の難しい部分であろう。

定量化の一つの手法として確率論による信頼区間を用いる手法など数学的なアプローチも多く検討されているが、そのように定量化することが妥当だと判断した根拠・前提も同時に報告しなければならない点を踏まえると、結局、日常の通常業務との関係から資本要件の何パーセントといった単純な帰納的なアプローチが現実的かもしれないと述べられている。

●FSA へのフィードバック

FSA は各企業から報告として受けた自己資本評価を元に独自の手法で評価し、各社へ個別資本ガイダンスを発行するが、この評価過程は各社の経営スタイルや状況など様々な事情を勘案しなければならないため、非常に時間がかかるなど、まだまだ改善の余地があると筆者は考えている。



このような問題を解決するため FSA が疑問点を提示し、業界に意見を求めているときこそ絶好のチャンスである。自己資本の評価方法に企業のみで悩まず、積極的に FSA と協力し、中長期的にも参考となりうるガイダンス作成方法が開発されることが業界にとって有益な将来となるだろう。

●将来に向かって

ICAS による自己資本評価の報告は単なる報告に留まらず、各企業が自社の持つ様々なリスクについて、認識・研究するいい機会となり、オペレーショナルリスクへの新たなアプローチ、シナリオテスト、中長期の資本要件の調査など、モデリングの強化を図った結果、リスク管理の強力なツールとして会社の財務的な成功を収めるための重要な指標を開発することへつながった。

まだまだ本当の挑戦はこれからであり、FSA と協力し連携を密にしながら、ますますの研究が業界の発展へ寄与するだろう。

原文をお読みにになりたい方は英国アクチュアリー会の HP をご覧下さい。

http://www.the-actuary.org.uk/pdfs/06_04_03.pdf